

令和4年度第1回大阪府消防団充実強化研究会議事概要

日 時：令和4年4月22日（金）18時00分から

場 所：WEB開催

参加者：別添名簿のとおり

◆議題（1）今年度の研究テーマについて（資料1及び資料2）

○ 事務局より、資料1及び資料2を用いて説明を行った。

（事務局の説明ポイント）

- ・ 消防団員数について、大阪府ではここ数年減少傾向。また、被雇用者の割合は令和3年4月1日時点で61.8%と、全国と比べて10ポイント以上、下回っている。
- ・ 消防団員の年齢構成比について、30歳代以下の割合が大阪府では令和3年4月1日時点で25.4%と、全国と比べて約16ポイント下回っている。
- ・ 女性消防団員がいる消防団の割合について、大阪府では令和3年4月1日時点で56.8%と、全国と比べて約19ポイント下回っている。
- ・ 学生消防団員について、大阪府と同規模程度の他府県と比較した場合、大阪府の学生消防団員数は少ないと考えられる。
- ・ 機能別消防団員を採用している市町村の割合について、大阪府では令和3年4月1日時点で約25%と、全国と比べて約10ポイント下回っている。
- ・ 大阪府が過去に府民に対して実施したアンケート結果について、消防団員の認知度（名前も活動内容も知っている府民の割合）は約4割、消防団活動への参加意向がある府民の割合は約2割となっている。
- ・ 大阪府が過去に消防団関係者（消防団長、消防長、市町村の消防団担当者など）に対して実施したアンケート結果について、大阪府の消防団関係者の7割超の方々は、新入団員の確保、若手消防団員の確保が課題と認識している。

○ 主な意見（事務局の説明に対して）

- ・ 機能別消防団について、当市の市役所の分団では、昼間の火事など、消防団が仕事に行っていて集まってこられないときに出発していただき、消防団が集まってきたときには消防団と交代するというふうなやり方をしているが、他にもどのようなふうなやり方をやっているのか、いいのがあればそれも参考にさせていただきたいと思っています。
- ・ 消防団員の確保についてはこれまでも総務省消防庁から都道府県知事等に向けて文書が出ており、そういったものも活用して集めていかなければならないと思います。市役所や農協、色々な企業に対して文書を流し、消防団の加入促進をやっていけたらいいのではないかと思います。

○ 座長より、今年度の研究テーマを「広報」とする旨の提案があり承認された。

- ・ （座長）今後消防団員をどう確保していくのかということについて、若年層や学生、女性など、色々と不安定要素があると感じている。大阪府の消防団員を確保するためには、まずは消防団の

認知度を向上させていきたいと考えている。そこで、今年度の研究テーマを「広報」として、これを一年かけて検討していきたいと思いますがいかがでしょうか。

○ 主な意見（今年度の研究テーマを「広報」とすることについて）

- ・ 今年度は3年ぶりに大阪府消防大会が実施される予定です。インターネットで生配信するなど、もっと一般市民の方にPRできれば、消防団の活動を知っていただき、また消防団員の確保に繋がるのではないかと考えます。
- ・ テレビの見逃し配信などの広告利用を考えてみてはどうか。また、若者がよく利用するSNS等を利用して消防団に関する情報の発信を進めてみてはどうか。
- ・ 消防団の名前は知っているけども何をしているのか分からないということもあるため、消防団の活動について市町村の広報に載せていただいてPRをしていかなければならない。女性消防団や公務員や各種団体に対してのPRなど、ひとつだけではなく色々なことを用いてPRしていくことで、消防団員が増えていくのではないかと思います。
- ・ 今年度配布した消防団員募集のマスクシールの他にも、2年ほど前もピンバッジを作成して団員さんに配布した。団員さん自ら身に着けることで、それを見た方との話のきっかけとなり、消防団の活動や存在をPRすることが重要である、効果的であると思い作ったところです。女性消防団については、市町村の救命講習に参加している女性の方々に声をかけたところ、入団者がたくさん出た事例や、団員さんが消防団の広報誌を作っている市もあります。昨年度は枚方市のホームページの例が発表されたところです。消防団員自らが経験や活動を府民にPRすることが大変重要なのではないかと考える。
- ・ 2025年に大阪で万国博覧会が開催されます。大阪府民のみならず全国が注目している万博開催に絡めて、大阪府が推進している災害に強い都市づくりの一翼を消防団が担っている、ということ発信することにより、消防団の効果的なPRにつなげることができるのではないかと考えます。
- ・ 当市は退職される消防団員さん、またそれに代わって入ってこられる新入団員さんに大きな開きはなく、団員の確保に苦慮するという事態にない状況で、団員さんの年齢に関しましても比較的他市に比べて若い状況です。当市の場合は、団員さんが地域に根付いた活動を取っていただいている状況が効果的なのかなと考えています。広報の中身については、広く意見を聞いていただき、本当に苦慮されておられる他府県含めて、市町村の現在行っている手法、また今後行う予定等の手法を、生の声を聞くのが一番かなと思います。
- ・ テレビの見逃し配信、TVerなどもあると思うのですが、その広告などを利用してみてはどうかと思います。また若者がよく利用するSNSなどを積極的に使用して消防団に関する情報などの発信を進めてみてはどうかと思います。やはり消防団をまずは知っていただくということが大事になってくると思いますので、まずはSNSなどを活用して、若者に問いかけるということも大事なのではないかと思います。
- ・ 私自身消防団員だったこともあり、その時感じたこととしましては、消防本部がある中で、消防団の役割というのが分かりにくかったというのがありました。最近の地震災害の時にも、消防団の方は一番早い救助、そういったことに対して、やはり消防団は重要だと思っています。今年は

コロナが一定落ち着いてきましたら操法訓練もやっていただけたらと思っておりますので、そういったものを皆さんに、インターネット、SNSを通じてPRしていただいて、消防団の活動を広く知っていただくというのが団員を増やしていく一助になるのではないかと思います。

- ・ 効果的な広報をするために、ターゲットや、手段、方法を絞って実施すべきかと思っております。消防団関係者の7割が特に若手の消防団員の確保が課題とおっしゃっていましたので、若手に情報が届く、つながるような仕組みや仕掛けの検討が必要ではないかと思っております。
- ・ SNSのライブ配信とかそういった形もいいかと思いますが、今直接何をしているかというような形のアピールということで、例えば活動中に、看板を設置するとかそういったものがあればいいのではないかと思います。

○ まとめ

- ・ (座長) 広報について、いただいた意見では、色々と深掘りしたり、生の声を聞くべきというものもあった。広報については色々な手法があると思いますが、どうしたら効果的に消防団を認知してもらえるのか、皆様からいただいた意見を参考にこの研究会で引き続き検討していく。

◆議題(2) ワーキンググループの設置について(資料3)

○ 事務局より、資料3を用いて説明を行った。

(事務局の説明ポイント)

- ・ 大阪府消防団充実強化研究会にワーキンググループを置くことができる。
- ・ ワーキンググループは必要に応じて座長が設置する。
- ・ ワーキンググループ長は座長が指名する。

○ 座長より、調査研究ワーキンググループと広報戦略ワーキンググループを設置する旨、説明を行った。

◆議題(3) 今年度のスケジュールについて(資料4)

○ 事務局より、資料4を用いて説明を行った。

以上